

講義名	経済特殊演習			授業形態	
担当教員	仲間 瑞樹	開講期・曜日・時限	前期 水曜日 3 時限		
		単位数	0	履修開始年次	1 年生

**主題と概要**

**主題**  
2 期間世代重複モデルを利用した定性面・理論面からの経済分析

**概要**  
受講生は担当教員の専門分野である 2 期間世代重複モデルでの経済分析（例えば課税、国債、土地、公的移転政策、私的移転など）について、理論・定性面から学習をする。なお統計的手法を用いた経済分析、定量面からの経済分析については扱うことができないので、統計的手法を用いた経済分析、定量面からの経済分析は本演習では除外する。受講生は自身の博士論文のテーマを博士課程 1 年次の早い時期に決定し、決定したテーマに関する論文、先行研究を毎回発表する。その発表、2 期間世代重複モデルの学習・研究を通じて、定性面・理論モデルから分析した博士論文を作成する。

**到達目標**

2 期間世代重複モデルの構造を理解できる  
自身の研究テーマに合致した 2 期間世代重複モデルを構築できる  
自身の手で構築した 2 期間世代重複モデルを自身の手で解き、得られた帰結に対する含意を導くことができる  
博士論文作成を通じて、「問題意識の明確化・既存文献レビュー・仮説提示・仮説検証」ができる

**提出課題**

博士論文で分析するテーマを決定後、決定したテーマに関連した先行研究に関するレポート提出

**課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法**

博士論文で分析するテーマを決定後、決定したテーマに関連した先行研究に関するレポート提出後、本演習内でレポートの内容を発表してもらい、教員がコメントなどを与える。

**評価の基準**

- ・平常点
- ・出席を確認します
- ・欠席回数が全講義回数の 3 分の 1 に達した時点で、単位認定対象者から除外します。
- ・発表内容
- ・博士論文

**履修にあたっての注意・助言他**

以下をよく読んでください。

受講生には大学院修士課程でのミクロ経済学、マクロ経済学、経済数学、2 期間世代重複モデルの知識があることを前提とします。そして 2 期間世代重複モデルを利用した修士論文を作成し、修士号を得ていることを前提とします。このレベルの内容のミクロ経済学、マクロ経済学、経済数学、2 期間世代重複モデルを履修したことがない、予備知識がない場合、本演習での発表そして本演習を通じた博士論文作成、提出は事実上不可能です。この点については十分に注意をしてください。

次に演習の講義ですので、教員が 2 期間世代重複モデルの講義をすることはありません。受講生に発表を毎回求めますので、報告内容を入念に準備し、教員から与えられたコメントについてよく復習をし、関連する論文などを徹底的に自身の手で読み込んでください。

最後に統計的手法、定量面からの経済分析は担当教員の専門外でもあるため、扱うことができません。

**教科書**

.使用しない。					
---------	--	--	--	--	--

**参考文献**

.なし。					
------	--	--	--	--	--

**その他**

受講生の博士論文のテーマに応じた参考図書が必要に応じて紹介します。

**授業計画**

授業計画については受講生の準備度合いに応じて、その内容を変更する場合もある。その場合は、あらかじめ教員が受講生に変更内容を事前に案内する。

なお以下の授業計画は15回分を示した授業計画であるので、実際の講義では各回で示されている授業内容での報告回数が増える予定である。

- 1 受講生が修士論文で扱ったテーマ、モデルについて報告
- 2 受講生が修士論文で扱ったテーマ、モデルについて報告
- 3 受講生が修士論文で扱ったテーマ、モデルについて報告
- 4 受講生が 2 期間世代重複モデルを利用して分析したい具体的なトピックを報告
- 5 受講生が 2 期間世代重複モデルを利用して分析したい具体的なトピックを報告
- 6 受講生が博士論文で分析したいトピックに関する先行研究について報告
- 7 受講生が博士論文で分析したいトピックに関する先行研究について報告
- 8 受講生が博士論文で分析したいトピックに関する先行研究について報告
- 9 受講生が博士論文で分析したいトピックに関する先行研究について報告
- 10 受講生が博士論文で分析したいトピックに関する先行研究について報告
- 11 受講生が博士論文で分析したいトピックに関する先行研究について報告
- 12 受講生が博士論文で分析したいトピックに関する先行研究について報告
- 13 博士論文で分析したいテーマ、博士論文の構成を報告
- 14 博士論文で分析したいテーマ、博士論文の構成を報告
- 15 博士論文で分析したいテーマ、博士論文の構成を報告

**授業形態（アクティブ・ラーニング）**

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L 型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

**準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間**

発表内容の準備（4 時間から 6 時間程度）  
復習及び関連論文の熟読（4 時間から 6 時間程度）

**卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連**

2 期間世代重複モデルの学習、発表を通じて、「理論的・実証的な課題を研究するために必要な科学的的方法論を身につけていること。」を達成できる。  
博士論文の準備、作成を通じて「研究者として、流通科学諸分野における豊かな学識と研究能力を身につけていること、または高度専門職人として、より実践的・課題解決的な能力を身につけていること。」を達成できる。

**双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述**

特になし

**実務経験の有無及び活用**

特になし

**備考**

繰り返しますが、修士課程レベルのミクロ経済学、マクロ経済学、経済数学の知識、そして 2 期間世代重複モデルの予備知識を前提とします。そして修士論文で 2 期間世代重複モデルを用いた理論的、定性面からの経済分析をし、修士号を得ていることを前提とします。上記の科目を学習したことがない、そして修士論文で 2 期間世代重複モデルを扱ったことがない人は、本演習と合致せず、博士論文の執筆ができませんので履修にあたっては十分に注意をしてください。